

優秀賞

ネバー・ギブアップ

東山中学校 2年 水野 夢香

私は将来、薬剤師になりたい。世界には重い病気にかかって苦しい思いをしている人がたくさんいる。また、治す方法が分からないまま亡くなってしまう人だっている。病気で苦しむ人だけでなく、自分の大切な人が苦しんでいるのを見て辛い思いをする人を少しでも減らしたい。医者や最新の医療技術でさえも治せない病気を、いつか私が開発した薬を通じて彼らの力になりたい。

私の大切な身内は不治の病を患っている。祖母は脳卒中の後遺症で歩き方が不自然になってしまい、大好きだった外出を好んでしなくなった。また、祖父母は毎日十種類以上の薬を飲んでいるが、それら全てが腰の痛み止めなど、症状を抑える為であって治す為のものでないことに気が付いた。両親だって突然の病で倒れてしまうかもしれない。一番お世話になっている家族を、いつか私が病気を「治す」薬を開発して、救ってあげたい。

昨年のことだろうか、母が録画してくれていた「ぼくのいのち」というノンフィクション番組を見た。それは、生存率ゼロパーセントと診断された男の子が、前向きな思考と家族の支えによって治療に成功するという話だった。途中幾度も、男の子の辛そうな表情や家族に突きつけられた厳しい決断に、心が締めつけられた。それでもなお、辛い抗がん剤治療に耐え、臓器提供をしてくれた家族のことまで気にかけて笑顔を振る舞う男の子の強さに心を打たれた。しかしこの実話は奇跡であり、前向きな思考で誰もが病気を治せるわけではないと思う。五体満足で健康な体を持っている自分こそ、彼のように病気で苦しんでいる人達を助けなければならないと感じた。私が開発した薬を通して、医者縁の下で力持ちとなり活躍したい。

薬剤師になる為には、薬学部がある大学を六年間で修了し、国家試験に合格しなければならない。つまり、薬剤師になれるのは最速でも二十六歳からなのだ。そこに至るまでの道のりには、予想だにできなかった大きな苦難が潜んでいるかもしれない。それに耐えかねて、薬剤師という夢を諦めようとしてしまうかもしれない。しかしそんな時には、何の為にここまでやってきたのか、薬剤師を目指す本当の理由は何だったのか、初心に戻ってよく考えたい。

私はいままで、テストや発表会の時はネバーギブアップと、自分を元気づけてきた。この「決してあきらめない心」を持ち、薬剤師への道を自分の手で、恐れず切り開いていきたい。